



# バイクに乗れ

会員 渡邊 昇龍 (73期)

## 1 生の実感

「成功者は、例え不運な事態に見舞われても、この試練を乗り越えたら必ず成功すると考えている。そして、最後まで諦めなかった人間が成功しているのである」、本田技研工業株式会社の創業者、故本田宗一郎氏の言葉である。私は成功しているとは到底言えない若輩の身であるが、どんな状況であっても、目標の達成を諦めること自体を選択肢として持たない人間であるからか、人生初の愛車がHONDAのCB750となったのは必然であったのかもしれない。仕事が終わりに、深夜に愛車に跨って走るとき、言葉では形容できない感動がある。ツーリングは「風になる」と比喻されることもある。実際、少しずつ自分の個が消えていき、世界の一部に組み込まれ、全身で世界を感じる感覚がある。変わらない日常の中で、強烈に生を実感できる瞬間である。文字だけだと非常に危険な状態のように感じるが、遵法意識は常にあるので、あくまで比喻でしかなく、ことを付言しておく。

## 2 マイナスイメージ

バイクもしくはオートバイと言えば、怖そうな人が乗っている、排気音がうるさい、排気ガスで環境を破壊している、交通事故で簡単に命を落とすなど、バイクに乗らない方々からすれば、マイナスなイメージを抱くのではないだろうか。あくまで私一人の意見であるが、これらのイメージは紛れもなくすべて事実である。ただ、考えてみて欲しい。私達弁護士の仕事は体力が重要であることは言うまでもないが、根本的には頭脳労働がメインである。多角的な視点から物事を考えることが仕事のはずである。それを踏まえて、上記のマイナスイメージについて考えてみる。まず、バイクは乗っている人の姿やファッションが見えるため怖いと思うのであって、自動車の運転席の人は目にすることが少なく、

公道を走る自動車とバイクの台数の違いを考えれば、自動車に乗っている人の方が怖そうな人が多いという可能性はある。また、バイクが大きな音を出さなければ、音楽を掛けて運転している自動



車の運転手はバイクの存在を見落とし、思わぬ事故を起こしてしまう可能性があるのではないだろうか。排気ガスを出すからこそ、より排気ガスを出さないような技術革新が促されるのではないだろうか。自動車よりも交通事故で簡単に命を落とすからこそ、交通ルールをきちんと遵守し、より慎重な運転になるのではないか。マイナス点も見方を変えれば、バイアスに縛られていたことや利益を生む可能性があることは往々にしてある。バイクに乗るというただそれだけの体験を通して、日々大きな発見があると感じる。

## 3 Live it up

現在、仕事やプライベートで様々な悩みを抱えている方は多くいると思う。所属事務所が合わずに苦しい思いをしていたり、仕事が激務で命を断とうとまで思い詰めている人もいるかもしれない。命を落とすと悲しむ人が周りにいるとか、重要なのはそこではない。あくまで自分のために。バイクと共に駆け抜け、世界と一つになるあの感覚を知らずに人生を終えるのは勿体ない。一步踏み出して、バイクに跨り、生きている実感を味わって欲しい。私はあなたと一緒に走るのを待っている。